

研究室だより

(2017年4月1日～2018年3月31日)

- 大場昌子教授は、4月、日本女子大学学長代行に就任。
- 花角聡美氏は、4月、助教に就任。
- ピーター・ロビンソン氏は、4月、准教授に就任。
- 佐藤和哉教授は、4月、日本英文学会関東支部の編集委員に就任。
- 藤井洋子教授は、4月、社会言語科学会の理事に就任。
- 藤井洋子教授は、4月、共創学会の理事に就任。
- 佐藤達郎准教授は、4月、日本シェイクスピア協会の委員に就任。
- 坂田薫子教授は、4月1日から2018年3月31日まで、中央大学総合政策学部にて派遣研究員として研修。
- 坂田薫子教授は、4月、『ジェイン・オースティン研究の今——同時代テキストも視野に入れて』（彩流社）を共著にて出版。
- 三神和子教授は、4月、「フランシス・パワー・コブ（1822-1904）とモナ・ケアード（1854-1932）」シンポジウム「女性と動物——動物の苦痛への共感から反生体解剖運動へ」の報告記録を『女性とジェンダーの歴史』第4号に執筆。
- 馬場聡准教授は4月、『ウォルター・クレインの美女と野獣』（アトランスチャーチ）を翻訳出版。
- 早野薫准教授は、4月、「修復の組織」を『日本語学』第36号4巻に執筆。
- 藤永康政准教授は、4月5日から4月9日まで、Organization of American Historian 年次大会に出席のため、アメリカ合衆国ニューオーリンズに海外出張。
- ピーター・ロビンソン准教授は、4月、Heritage Lottery Fund のプロジェクト活動の一環として“A Sussex Alphabet (Snake Rover Press)”を編集・出版。活動の集大成として最終プロジェクト“A South Downs Alphabet: inspiring people to create a literary heritage for the future”を June Goodfield 氏と共同企画。プロジェクトブック *A South Downs Alphabet* を出版。
- ピーター・ロビンソン准教授は、4月29日から6月25日まで、展覧会“Novelists and Newspapers: The Golden Age of Newspaper Fiction, 1900-1939”（於東京大学駒場博物館）を監修。
- 佐藤和哉教授は、5月、「児童文学を教える」を『教室の英文学』（研究社）に執筆。
- 英語英文学会の春季総会として、インターナショナル・シアター・カンパニー・ロンドン招致講演「十二夜」が、5月11日、日本女子大学文学部・文学研究科主催学術研究事業と共催で開催された。
- 川端康雄教授は、5月13日、「ラスキン、グリーンハウエイ、W・H・フーパーの協働——『リーのウィギンズおばさんと七匹の愉快な猫のおはなし』（1882）の制作をめぐる」を日本児童文学会東日本支部春の例会（於法政大学）にて招待講演。
- 坂田薫子教授は、6月、日本ジェイン・オースティン協会の学会誌編集委員

に就任。

- 佐藤和哉教授は、6月、日本英文学会の事務局長補佐に就任。
- ピーター・ロビンソン准教授は、6月10日、“Capricious Captioning and Narrative Instability: Hugh Lofting’s *Doctor Dolittle* Newspaper Illustrations”を展覧会“Novelists and Newspapers: The Golden Age of Newspaper Fiction, 1900–1939”（於東京大学駒場博物館）において一般講演。
- 松森晶子教授は、6月18日、「3 モーラのフットを持つ方言——南琉球宮古島の上地と与那覇の三型体系——」を国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」共同研究会（於国立国語研究所）にて発表。
- 川端康雄教授は、7月1日、学術振興会外国人招へい研究者 Dr. Keith Hanley（ランカスター大学教授）の講演（於東京大学駒場キャンパス）“Laurence Binyon: Romantic Modernist and the Invention of Japan”の司会を務める。
- 藤井洋子教授は、7月13日、「日英語比較による語法、語用指導——ことばへの気づきを喚起する英語教育に向けて——」を2017年度学術交流シンポジウム『日本女子大学における「教科及び教科の指導法」について——教育研究業績資源化への試み——』（於日本女子大学）家政学部・家政学研究科・人間生活学研究科、文学部・文学研究科、理学部・理学研究科共催にて発表。
- 川端康雄教授は、7月14日、日本女子大学文学部英文学会主催学術講演会（於日本女子大学目白キャンパス）で Dr. Keith Hanley（ランカスター大学教授）の講演“John Ruskin and Religion”の司会を務める。
- 藤井洋子教授は、7月15日から7月23日まで、第15回国際語用論学会に出席、研究発表のため、連合王国北アイルランド、ベルファストへ海外出張。7月17日、“Pragmatics of *ba*: A cross-linguistic study of task-based interaction in Japanese, Korean, Thai, Chinese and American English”をパネル“Emancipatory Pragmatics: Approaching Language and Interaction from the Perspective of *Ba*”にて口頭発表。
- 町沙恵子助教は、7月15日から7月20日まで、第15回国際語用論学会に出席、研究発表のため、連合王国北アイルランド、ベルファストへ海外出張。7月17日、“Repetition as a Device for Teaming and Teasing in Triadic Conversation in Japanese”をパネル“Emancipatory Pragmatics: Approaching Language and Interaction from the Perspective of *Ba*”にて口頭発表。
- アン・スレイター教授は、7月16日、エッセイ“The Stories Behind Ordinary Lives and Things”を *The Huffington Post* に執筆。
- 高梨博子准教授は、7月17日から7月24日まで、The 15th International Pragmatics Conference に出席、研究発表のため、連合王国北アイルランド、ベルファストに海外出張。7月21日、“Multiplicity of Playful Stance Markers in Japanese: A Dialogic Syntax Approach”を口頭発表。
- 土屋智子講師は、7月30日、“Producing Multiracial Family: Mothering “Mixed Blood” Children and Pursuing the American Dream at the Beginning of the Cold

- War”を若手アメリカ研究者国際フォーラム「アメリカの世紀とその行方」(公益財団法人アメリカ研究振興会助成)(於中央大学明治記念館)にて口頭発表。
- 馬場聡准教授は、8月、美術展「シンデレラとガラスの靴展」(SUWA ガラスの里美術館)を学術監修。
 - 馬場聡准教授は、8月、「ディズニーで学ぶアメリカン・フードの世界」を『ディズニーファン 10月号』(講談社)に執筆。
 - ダグラス・フォスター准教授は、8月6日、“ER is Essential”を The Fourth World Congress on Extensive Reading (於東洋学園大学)にて Joseph Poulshock と共著で口頭発表。
 - 高梨博子准教授は、8月11日から8月20日まで、インバウンド・コミュニケーションのフィールドワークのため、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンタバーバラへ海外出張。
 - 花角聡美助教は、8月14日から8月22日まで、資料収集のため、連合王国へ海外出張。
 - ピーター・ロビンソン准教授は、8月15日“Book Advertising Studies: Project Overview”を Inaugural Book Advertizing Workshop (BKAS) (於連合王国エディンバラ大学)にて講演および司会を務める。
 - 三神和子教授は、8月22日から9月1日まで、資料収集のため連合王国(ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス図書館)へ海外出張。
 - 川端康雄教授は、8月29日から9月4日まで、科研基盤研究(A)「「産業文学」の再定義とその国際共同研究」に係る国際会議“Selective Tradition in the Pacific A Conference on Class, Writing, and Culture”(於ニュージーランド・ウェリントン)に出席のため、ニュージーランド・ウェリントンに海外出張。9月2日、“‘Deadly the Harvest of Two Atom Bombs’: An Anti-A-Bomb Song Travelling from Japan to Britain”を廣瀬絵美学術研究員と共同で口頭発表。
 - 大場昌子教授は、9月、『彷徨える魂たちの行方——ソール・ペロ—後期作品論集』(彩流社)を分担執筆にて出版。
 - 藤永康政准教授は、9月、アメリカ史学会の代表に就任。
 - 藤井洋子教授は、9月、「日英語比較による英語の指導——ことばへの気づきを喚起する英語教育を目指して——」を『教化教育法に関する研究 Vol. 3』日本女子大学編に執筆。
 - 高梨博子准教授は、9月、「インバウンド・コミュニケーションにおけるスタンステーキングの分析——パフチンの対話原理の視点から——」を『第40回社会言語科学会研究大会発表論文集』に執筆。
 - 馬場聡准教授は、9月、『衣装が語るアメリカ文学』(金星堂)を共著にて出版。
 - 馬場聡准教授は、9月、「アメリカン・ゴースト・ストーリーの世界」を『ディズニーファン 11月号』(講談社)に執筆。
 - 増田和香子助教は、9月1日から7日まで、資料収集のため、アメリカ合衆国ニューヨークおよびワシントン D.C. へ海外出張。

- 馬場聡准教授は、9月9日、「アメリカ文学におけるコミュニケーション表象の変遷」を英米文化学会第35回全国大会（於法政大学）にて口頭発表。
- 高梨博子准教授は、9月16日、「インバウンド・コミュニケーションにおけるスタンス・ステイキングの分析——パフチンの対話原理の視点から——」を第40回社会言語科学学会研究大会（於関西大学）にて口頭発表。
- 花角聡美助教は、9月16日に「ジョン・ラスキンの労働観——『フォルス・クラヴィゲラ』を中心に」を日本比較文学会東京支部9月例会（於日本大学）にて口頭発表。
- 大場昌子教授は、9月23日、日本ユダヤ系作家研究会第29回講演会（於日本女子大学）にて研究発表の司会を務める。
- 大学院英文学専攻修士論文中間発表会が、9月28日、開催された。博士課程前期2年次4名が修士論文の中間発表を行った。
- 佐藤和哉教授は、10月1日、「イギリス児童文学の世界『アリス』と『プーさん』：ディズニーの向こうにあるもの」を米子市立図書館・図書館友の会・桜楓会講師派遣事業講演会（於米子市立図書館）にて招待講演。
- 松森晶子教授は、10月2日、日本学術会議 第24期 連携会員に就任。
- 坂田薫子教授は、10月、「英米文学分野の英語教育——英語教員育成への貢献」を報告書『2016年度日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画シンポジウム「日本女子大学から発信する英語教育——英語教員育成の今後を考える」』（日本女子大学英文学科編）に執筆。
- アン・スレイター教授は、10月、ノンフィクションエッセイ“Driving to Shangri-La”を *Flock* に執筆。
- アン・スレイター教授は、10月、ノンフィクションエッセイ“Traveling in Bardo”を *AGNI* に執筆。
- 松森晶子教授は、10月、「九州二型体系の複合語アクセント型はなぜ中和するのか——通時的視点から探る——」を『日本語の研究』（日本語学会学会誌）第13巻4号に執筆。
- 松森晶子教授は、10月、「リズムから開始する英語音声の指導（1）——日英語のリズム単位の違い——」を日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画シンポジウム——日本女子大学英文学科から発信する英語教育：英語教員育成の今後を考える』報告書 pp. 15-21 に執筆。
- 内山加奈枝准教授は、10月、日本比較文学会第55回東京支部大会において総合司会を務める。
- 鈴木喜和准教授は、10月、“The Birth of New Heroism: Post-Waterloo Cockney Politics and ‘Hyperion’”を *The Keats-Shelley Review* 第31-2号に執筆。
- 馬場聡准教授は、10月、『『美女と野獣』の進化論』を『ディズニーファン 12月号』（講談社）に執筆。
- 増田和香子助教は、10月、傍聴記「英語教員育成に対する歴史・文化研究の試みを聞いて」を『日本女子大学英文学科から発信する英語教育：英語教員育成の今後を考える——報告書』（日本女子大学文学部英文学科編）に執筆。

- 町沙恵子助教は、10月、傍聴記「生きた英語へのアプローチ：コミュニケーション・グラマーの重要性」を『日本女子大学英文学科から発信する英語教育：英語教員育成の今後を考える——報告書』（日本女子大学文学部英文学科編）に執筆。
- 小林かおり助手は、10月、傍聴記「英語の原文から学べること」を『日本女子大学英文学科から発信する英語教育：英語教員育成の今後を考える——報告書』（日本女子大学文学部英文学科編）に執筆。
- 佐藤達郎准教授は、10月7日、第56回シェイクスピア学会（於近畿大学東大阪キャンパス）にて司会を務める。
- アン・スレイター教授は、10月9日、“Creative Nonfiction: What Is It and How Do You Write It?”をThe 2017 Japan Writers Conference (Tokyo) で発表。
- 松森晶子教授は、10月9日から10月13日まで、Workshop on Prosody and Prosodic Interfaces in Japanese and Korean（国立国語研究所主催）にて招待発表のため、アメリカ合衆国ハワイ大学マノア校に海外出張。10月11日、“Prosodic units and phonological processes of the Miyako-jima and Tarama-jima systems in Miyako Ryukyuan”を招待発表。
- 早野薫准教授は、11月、“When (not) to claim epistemic independence: The use of *ne* and *yone* in Japanese conversation”を*East Asian Pragmatics* 第22号に執筆。
- 藤永康政准教授は、11月、「オバマの時代——ポスト人種の功罪とトランプ政権の誕生」を『歴史評論』第811号に執筆。
- 早野薫准教授は、11月5日、“(Re)constructing epistemic status: Some techniques for legitimizing an epistemic claim in interaction”を第90回日本社会学会（於東京大学）にて口頭発表。
- 英語英文学会の秋季講演会が、11月9日、開催された。講師はピーター・ロビンソン准教授。演題は“The Wonderful World of Early American Comics, 1915–1935.” また大学院生2名による研究発表も行われた。発表者は、イギリス文学より博士課程後期2年の渡邊彩子。発表タイトルは“The Problem of the Body and the Soul in William Shakespeare’s *Hamlet*: Hamlet’s Conflict between Platonic Catharsis and Revenge.” 言語・英語研究より博士課程前期2年の村上莉花。発表タイトルは、「小学校英語におけるモジュール活動の効果」。講演と発表に先立ち、平成29年度E.G. フィリップス賞の授与式が行われた。受賞者は3年次岡崎菜緒、渡邊美和子、4年次浅賀友那、新家理沙。
- 高梨博子准教授は、11月18日、「対話統語論からみた遊び表現の文法化現象」を日本英語学会第35回大会（於東北大学）にて講演（シンポジウム「話しことばが新たに拓く文法の多重性——理論と実践——」の講師）、および司会を務める。
- 高梨博子准教授は、11月23日、“The Dialogic Grounds for the Innovative Use of Japanese Play Stance Markers: Its Diversity, Multiplicity, and Complexity”を科学研究費助成事業「日常の相互行為における定型性：話しことばを基盤とした

- 言語構造モデルの構築（課題番号：17KT0061、代表者：鈴木亮子）」の国際研究会合“Fixed Expression Research Meeting”（於慶應義塾大学）にて招待講演。
- 大学院英文学専攻課程協議会第51回研究発表会が、11月25日、立教大学にて開催された。本学大学院より、博士課程前期2年幸田瑞希、博士課程後期1年越後谷明恵、3年海老名恵が発表。アドバイザーとして川端康雄教授、高梨博子准教授、馬場聡准教授が出席。
 - アン・スレイター教授は、11月27日、エッセイ“‘Garden, Temple, Tea, River, Miracle, Sun’: Megan Marshall on Kyoto and Elizabeth Bishop”を *The Huffington Post* に執筆。
 - アン・スレイター教授は、12月、エッセイ“Teatime in Darjeeling”を *Tin House* に執筆。
 - 藤井洋子教授は、12月10日、共創学会第1回年次大会にて司会を務める。
 - 藤井洋子教授は、12月15日から17日まで、日本語用論学会第20回大会に出席のため、京都工芸繊維大学へ出張。12月16日、「日英語の比較から見る「場」と日本語の諸相」をワークショップ「場の語用論の試み——日本語のインテュイションに基づく解釈——」にて発表。
 - 川端康雄教授は、12月16日、第2回ウィリアム・モリス研究会（意匠学会デザイン史分科会）（於同志社女子大学）にて「「擬い物」に抗って——ウィリアム・モリス晩年の講演“Makeshift”（1894）についての一考察」を口頭発表。
 - 馬場聡准教授は、12月16日、多民族研究学会第29回全国大会（於国士館大学）にて司会を務める。
 - 川端康雄教授は、12月29日、ウィリアム・モリス「冬」およびエミリー・ディキンソン「鉛の飾りかけられて」の訳詩を『婦人画報』2018年2月号に発表。
 - 大場昌子教授は、1月13日、『図書新聞』に、グレイス・ペイリー著、村上春樹訳『その日の後刻に』（文藝春秋）の書評を掲載。
 - アン・スレイター教授は、2月、ノンフィクションエッセイ“Driving to Shangri-La”を *Kyoto Journal* 第90号に執筆。
 - 町沙恵子助教は、2月、“The appeal of gender crossing in *Twelfth Night*”を *Teaching Shakespeare* 第14号に執筆。
 - 川端康雄教授は、2月17日、日本女子大学大学院文学研究科主催学術講演会（於日本女子大学目白キャンパス）でDr. Barrie Bullen（ロンドン大学ロイヤル・ホロウェイ校教授）の講演“Long live King Arthur!: British Pre-Raphaelitism and Arthurian myth”の司会を務める。
 - 大場昌子教授は、3月、『ホロコースト表象の新しい潮流——ユダヤ系アメリカ文学と映画をめぐって——』（彩流社）を分担執筆にて出版。
 - 松森晶子教授は3月、「熊本県葦北郡芦北町田浦方言の二型アクセント体系」を『日本女子大学紀要文学部』第67号に執筆。
 - 内山加奈枝准教授は、3月、「村上春樹とポール・オースターの「テキスト」を読む孤児たち——「個」を生きるための記憶と想像力——」を『日本女子大学

- 紀要文学部』第 67 号に執筆。
- 佐藤達郎准教授は、3 月、「『エイジャックスの変容』と諷刺」を *Shakespeare Journal* 第 4 号に執筆。
 - 早野薫准教授は、3 月、“A-prefaced responses to inquiry in Japanese”を *Turn-initial particles across languages* (John Benjamins) に共著にて執筆。
 - ピーター・ロビンソン准教授は、3 月、“Comic Hybridity and Filmic Association in F.C. Collinge’s ‘Musical Strip’ *Dinny Doodles*”を『英米文学研究』第 53 号に執筆。
 - ピーター・ロビンソン准教授は、3 月、エッセイ “Literary Gifts for the Season: Book Advertising in *The Times*’ Christmas Books Supplement, 1909–1919”を BKAS Essay Shorts: Book Advertising Studies に執筆。
 - 土屋智子講師は、3 月、“Ambassadors of Japan: Women’s Narratives within the Idea of Cultural Pluralism”を『英米文学研究』第 53 号に執筆。
 - 町沙恵子助教は、3 月、“Paraphrasing the ‘Other’: Connecting Participants in Japanese Conversation”を『日本女子大学紀要文学部』第 67 号に執筆。
 - 松森晶子教授は、3 月 5 日、「奄美大島瀬戸内町の音節構造」を第 13 回音韻論フェスタ (2018) (於早稲田大学) にて発表。
 - 川端康雄教授は、3 月 21 日から 3 月 30 日まで、科研基盤研究 (A) 「「産業文学」の再定義とその国際共同研究」および「異文化交渉の動態と位相」に係る調査のため、フランス、パリおよびスペイン、バルセロナに海外出張。